

株式上場への挑戦

株式会社タケエイ 代表取締役会長

三本 守

MITSUMOTO MAMORU



1968年個人企業として建設廃棄物の収集・運搬・処理を手がけ始める。

1977年武栄建設興業(株)を設立、取締役就任。1983年代表取締役就任。1988年(株)

タケエイに社名変更。2010年代表取締役会長就任。(公社)全国産業廃棄物連合会理事、

(一社)千葉県産業廃棄物協会副会長、環境省・国土交通省の各種委員会委員など多数歴任。

2018年(公財)日本産業廃棄物処理振興センター理事就任(現任)。

タケエイは長らく、創業者をはじめとする役員一同、家族的な体制で経営してきた。気心の知れた仲間と“身の丈に合った”経営をこれからも続けるか、それとも日本一のカンパニーを目指すのかを議論するようになったのは、1994年頃のことである。

当時の売上高は60億円、従業員は200人強と、既にある程度の規模に成長していた。藤本氏と私を含む経営陣は日頃からよく話し合い、会社の私物化もせず、順調だった。このままでいいじゃないかと思う反面、もっと上を目指したい気持ちもあった。

廃棄物処理業界の社会的地位は、決して高くない。不法投棄・不適正処理は後を絶たず、中間処理工場や最終処分場は「迷惑施設」と呼ばれてしまう。20年前は尚更だ。この業界の地位を高め、存在感を示したい。そのためには、自社の廃棄物処理・リサイクル体制を一段も二段も高いレベルに引き上げ、「社会の公器」として世の中の役に立つ必要がある。そう考えた私達は、東京証券取引所(東証)上場を決意した。上場するには様々な審査をクリアしなければならず、その過程で事業内容や制度・規則を徹底的に見直すので、自ずと企業体質が向上する。上場準備は金融危機などの影響により中断もしたが、2003年に本格始動した。

かつて証券業界では、廃棄物処理業者は上場に値しないとみられていた。まず、主幹事を引き受けようという証券会社が現れない。諦めかけたときに東海東京証券が手を挙げてくれて、上場申請準備に移ることができたものの、今度は申請書類をなかなか受理してもらえない。上場断念を暗に促されたことさえあった。書類が受理されたあとの審査にも時間がかかり、東証マザーズ市場へ上場^{※1}したのは2007年5月30日^{みゼロ}。実に4年を要した。ちなみに、よく「“ごみゼロ”の日を選んだのですか」と聞かれるが、全くの偶然である。

今では同業者の上場も増え、私達の挑戦が証券業界の“常識”を変えたのだと自負している。願わくは、もっと多くの廃棄物処理業者に上場を目指してほしい。社会における環境ビジネスの必要性は高まる一方であり、廃棄物処理業界の更なる健全化は急務だ。上場したということは、社会的評価を得た会社だという証明になる。全国証券取引所の業種^{※2}に「環境事業」が新設されるくらい、この業界の存在感が増していくことを期待している。

※1 その後、2012年7月30日には東証第一部へ指定された。

※2 現在、当社は「サービス業」に分類されている。